

平成29（2017）年度入学者

専門教育科目

《専門教育科目 専門基礎科目》

| | | | |
|-------------------------------|-------|----------|-----------|
| 科目名 | 生物基礎 | 科目ナンバリング | SBAL21004 |
| 担当者氏名 | 立谷 正樹 | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2・選択 |
| | | | 開講年次・開講期 |
| | | | 1年・Ⅱ期 |
| ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力 | | | |

《授業の概要》

本講義では、毎回の授業ごとに異なるテーマを設けています。特に生体・生命のしくみに関する知識に重点をおいて、生物の基本単位である細胞の機能と構造から学習を進め、最後の免疫系の学習に至るまで、全体の授業で生体・生命のしくみの概要を幅広く網羅した内容となっています。

《授業の到達目標》

健康・医療・栄養の専門家を目指す学生に必須となる生物の基礎知識を身につけることを目標としています。今後履修する専門科目の受講に先立って、幅広く生命・生体についての理解を深める基礎基本となる講義です。

《成績評価の方法》

アチーブメントテストの成績を主とし、この他に授業中に行う小テスト及び平常点を加味して評価します。※三度実施する小テストをコメントして返却し定期試験にフィードバックさせる。定期試験の得点率を考察し次年度の到達目標に反映させる。(アチーブメントテスト70%、平常点30%)

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|--------------------|--|
| 1 | 生物とは 細胞の構造と機能 | 生物体の特徴 (生物と無生物) 生体内への物質の出入り |
| 2 | 生命体を構成する物質 | 主役はタンパク質 生体元素と生体を構成する化合物 |
| 3 | 酵素と化学反応 | 酵素は生体内のさまざまな化学反応を促進する触媒 いろいろな酵素(消化とは) |
| 4 | 代謝と呼吸 小テスト | 生体内での物質交代とエネルギー交代 呼吸とは生きるためのエネルギーを獲得すること |
| 5 | 生殖とは | 配偶子の形成とヒトの性決定 親から子へ形質は伝わる(メンデル性遺伝) |
| 6 | ヒトの遺伝 | 血液型・赤緑色覚異常・染色体異常・遺伝子変異 など |
| 7 | 遺伝子の本体と タンパク質合成 | DNAの構造と複製 遺伝子からタンパク質へ 転写と翻訳 |
| 8 | 体液とその働き 小テスト | 体液の種類と循環のしくみ 酸素の運搬・血液凝固 |
| 9 | 肝臓・腎臓の働き | ものを作り、蓄え、分解する化学工場の肝臓 体液を浄化し尿を生成する腎臓 |
| 10 | 神経系の構造と働き | 刺激から反応まで 神経伝達物質による刺激の伝達 |
| 11 | 自律神経系と内分泌系 | 自律神経はアクセルとブレーキ(拮抗的作用) 内分泌系(ホルモン)による持続的な調節 |
| 12 | 体温・血糖量等の調節 小テスト | 自律神経とホルモンの連携による体内環境の調節(フィードバック調節) |
| 13 | 生体防御免疫 | 免疫・体を外敵から守るしくみ。 体液性免疫と細胞性免疫 |
| 14 | 免疫と疾患 | 疾患と医療(予防接種・自己と非自己・エイズ など) 抗原抗体反応と血液型 |
| 15 | まとめ アチーブメントテスト | 学習の総括と評価 |

《テキスト》

「新課程版 フォトサイエンス生物図録」
数研出版編集部編 (数研出版)

《参考図書》

「タンパク質の一生——生命活動の舞台裏」
永田和宏 (岩波新書)
「細胞のはたらきがわかる本」伊藤明夫 (岩波ジュニア新書)
「DNAがわかる本」中内光昭 (岩波ジュニア新書)
「カラー図説アメリカ版大学生物の教科書」全5巻
グレイグ・H・ヘラー他著 (ブルーバックス)

《授業時間外学習》

授業で使用する図解はかなり高度な内容であり、ヒトの生命について判りやすく解説してあります。授業中に指摘したポイントを図解を利用してしっかり復習し、3回行う小テストで満点を目指してください。分からないについては授業終了後に質問を受け付けます。

《備考》

ヒトの生活に必要な栄養と健康。今後履修する栄養や健康の専門分野に関連する生物学上の話題を取り入れながら、人体の構造・機能を中心に基礎的な知識を習得します。

《専門教育科目 専門基礎科目》

| | | | | |
|---------------------------|---|-------|----------|-----------|
| 科目名 | 人体の構造と機能及び疾病 | | 科目ナンバリング | SSPA11001 |
| 担当者氏名 | 長尾 光城 | | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2・必修 | 開講年次・開講期 |
| | | | | 1年・Ⅱ期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） | | | |

《授業の概要》

医学とりわけ臨床医学の近年の進歩はめざましく、疾病構造やそれに伴う医療も変化している。そこで、社会福祉関係者にも人体の構造と機能及び疾病への幅広い専門的理解と必要な知識を学べるよう指導する。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 1 人体の構造と機能及び疾病』（中央法規）

《参考図書》

①『新版 病気の地図帳』講談社（最新版）

《授業の到達目標》

授業終了時には、クライアントを支援する際に、疾病の特徴を理解し、疾病と生活との関連を考慮した支援を展開できるようになることを到達目標とする。

《授業時間外学習》

テキストの予習を心がけること。興味を持った医学関連の記事について自ら調べる習慣を持つこと。

《成績評価の方法》

授業態度（20%）
レポート課題（30%）
定期試験（50%）
提出物にはコメントを付して返却する。

《備考》

医学の入り口に立って、人体の構造、機能、疾病についての理解を深めてください。

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|--------------|--------------------------------------|
| 1 | 身体構造と心身の機能 1 | 部位名称について理解する。 |
| 2 | 身体構造と心身の機能 2 | 循環器・消化器系について学習する。 |
| 3 | 身体構造と心身の機能 3 | 神経内分泌・感覚器系について学習する |
| 4 | メタボリックシンドローム | メタボリックシンドロームの診断基準および生活習慣について学習する。 |
| 5 | ロコモティブシンドローム | ロコモティブシンドロームの診断基準及び予防について考える。 |
| 6 | 疾病の概要 1 | 生活習慣病－悪性腫瘍・脳血管疾患について学習する。 |
| 7 | 疾病の概要 2 | 生活習慣病－循環器・代謝疾患について学習する |
| 8 | 疾病の概要 3 | 生活習慣病－呼吸・消化器・免疫・腎疾患について学習する。 |
| 9 | 疾病の概要 4 | 生活習慣病－泌尿器・整形外科・感覚器等疾患について学習 |
| 10 | 障がいの概要 1 | 感覚器・肢体・内部障がいについて学習する。 |
| 11 | 障がいの概要 2 | 知的・認知・精神等障がいについて学習する。 |
| 12 | ドックと職場健診 | 職業と健康、健康診断について学習する。 |
| 13 | 感染症 | 感染症の治療と生活習慣について考える。 |
| 14 | 健康とはなにか | 障がいを持っていても、持っていないでも健康に生活することの意義を考える。 |
| 15 | 生涯現役のすすめ | 老いと健康について考え、生涯現役を過ごせるのか考える。 |

《専門教育科目 専門基礎科目》

| | | | |
|---------------------------|--|----------|---------------------------|
| 科目名 | 心理学理論と心理的支援 | 科目ナンバリング | SSPA11002 |
| 担当者氏名 | 北島 律之 | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2・必修 開講年次・開講期 1年・Ⅱ期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） | | |

《授業の概要》

社会福祉領域で実践を行うためには、人間理解が欠かせません。本講義では共通教育科目「心理学」の基礎部分を確認しつつ、社会環境の中で生じる心の変化を学びます。特に、「対人交流」、「発達」、「ストレス」、「心理療法と見立て」に関する内容について中心的に解説します。

《テキスト》

「心理学理論と心理的支援—心理学」 [編集] 社会福祉士養成講座編集委員会 中央法規

《参考図書》

「図説心理学入門第2版」 齊藤勇編 誠信書房（教養科目「心理学」教科書）

《授業の到達目標》

- ・ 共通教育科目「心理学」の基本テーマについて論じることができる。
- ・ 対人交流、発達、ストレス、心理療法と見立てといった主要テーマについて、理解し説明できる。
- ・ 社会福祉と心理学の関わりを説明できる。

《授業時間外学習》

- ・ 予習の方法 下の授業計画はテキストに準拠しています。該当する箇所を前もって読んでおくようにしてください。こういったテーマを学ぶか、前もって意識することが大切です。
- ・ 復習の方法 授業中に整理するプリントを中心に復習してください。その際、用語の意味を理解し覚えてください。

《成績評価の方法》

筆記テスト60%
確認テスト等20%
受講態度 20%
*確認テストについては、その場で答え合わせをし、全体に対して解説を行う。

《備考》

本科目は、共通教育科目「心理学」を修得後に受講することを奨めます。

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|----------------|---------------------------------|
| 1 | ガイダンス | 心理学の歴史と分野 |
| 2 | 心理学の基礎1 | 性格、感情 |
| 3 | 心理学の基礎2 | 欲求と動機づけ、感覚・知覚・認知 |
| 4 | 心理学の基礎3 | 学習・記憶、知能・創造性・思考 |
| 5 | 心理学の基礎4 | 知能・創造性・思考 |
| 6 | 人間環境と集団 | 社会的認知、集団、福祉現場とのかかわり |
| 7 | 対人交流とコミュニケーション | コミュニケーションの特徴、自己表現の方法(アサーション) |
| 8 | 発達の概念① | 子どもの発達心理学とこころの発達心理学 |
| 9 | 発達の概念② | 生涯発達心理学をめぐって |
| 10 | 適応とストレス① | ストレスと身体、ストレスに関する心理学的理論 |
| 11 | 適応とストレス② | ストレスと性格、ストレスと心理的反応、ストレスからの回復 |
| 12 | 面接・見立て | ソーシャルワーカーの見立ての面接と様々な心理テストに関する知識 |
| 13 | 心理療法 | ソーシャルワーカーの面接と様々な心理療法 |
| 14 | 脳と心 | 脳の働きと高次脳機能障害 |
| 15 | まとめ | 全体のふりかえり |

| | | | | | |
|---------------------------|---|-------|----------|-----------|-------|
| 科目名 | 社会理論と社会システム | | 科目ナンバリング | SSPA11003 | |
| 担当者氏名 | 吉原 恵子 | | | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2・必修 | 開講年次・開講期 | 1年・Ⅱ期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ◎ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-2 統計的データを理解し、加工し、活用することができる（統計分析力） | | | | |

《授業の概要》

本講義は、ソーシャルワークの基本となる「人・社会・生活と福祉の理解」のうち社会理論と社会システムについて学習する。現代社会における個人と社会の関係について、社会理論に関する専門用語によって、体系的に理解するとともに、社会的現実や実態について科学的手続きによってアプローチができるようになることをめざす。

《テキスト》

『社会理論と社会システム』社会福祉士養成講座編集委員会〔新・社会福祉士養成講座3〕（2014, 中央法規出版）

《参考図書》

『社会学がわかる事典』森下伸也（2000, 日本実業出版社）、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業の到達目標》

- (1) 社会学の理論における専門用語を習得して、現代社会の特徴を説明できる。
- (2) 人々の「生活」を構成する要素について体系的に学び、説明できる。
- (3) 社会問題について批判的に捉えるだけでなく、自分なりの考えをまとめて発表できる。

《授業時間外学習》

- (1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りのためファイリングして活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《成績評価の方法》

○ミニ・テストを数回実施する。（配点：文章作成能力および知識の定着度45%）○学習のまとめにより学習達成度を評価する。（配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組みようとする。（意欲、批判的視点等の獲得度：55%）○試験やレポートにコメントを付して返却し質問を受け付ける。

《備考》

この授業では、講義内容をただ知識として暗記するのではなく、現実社会との関係のなかで理解するため、専門用語の図示・図解を行う演習を適宜取り入れる。

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|-------------------------|---|
| 1 | 社会学的ものの見方 | 社会学の成立、社会学とは何か、個人と社会、社会学と社会福祉について理解する |
| 2 | 現代社会の理解 (1) 社会システム | 社会システム、社会指標、国民生活指標、新国民生活指標と行政評価、社会階層と社会移動について理解する |
| 3 | 現代社会の理解 (2) 法とシステム | 法の疎遠性、法の普遍性、法の不変性、開かれた法について理解する |
| 4 | 現代社会の理解 (3) 経済と社会システム | 交換と市場、市場における力の不均衡、市場の社会性と外部、労働市場と格差、経済の社会的制御について理解する |
| 5 | 現代社会の理解 (4) 社会変動 | 社会変動、近代化、産業社会の発展、グローバリゼーションについて理解する |
| 6 | 現代社会の理解 (5) 人口からみた社会変動 | 人口、人口転換、少子高齢化、人口の地理的分布について理解する |
| 7 | 生活の理解 (1) 生活のとらえ方 | 生活構造の概念、ライフステージ、生活時間、生活様式、消費、生活の質について理解する |
| 8 | 生活の理解 (2) 家族 | 家族の概念、家族の変容、家族の構造と形態、家族の機能、ジェンダーの視点、福祉国家と家族について理解する |
| 9 | 生活の理解 (3) 地域 | 地域の概念、地域社会の集団・組織、都市化と過疎化、地域のグローバル化とエスニシティについて理解する |
| 10 | 人と社会の関係 (1) 社会的行為と社会的役割 | マイクロ・マクロリンク、社会的行為、秩序問題、自己と他者、役割と地位について理解する |
| 11 | 人と社会の関係 (2) 社会集団と組織 | 社会集団の概念、集団の諸類型、集団のメカニズム、組織の概念、官僚制的組織について理解する |
| 12 | 人と社会の関係 (3) 社会的ジレンマ | 囚人のジレンマ、共有地の悲劇、社会的ジレンマについて理解する |
| 13 | 人と社会の関係 (4) 社会関係資本・連帯 | 近代化と社会的連帯、社会関係資本の理論、社会的排除について理解する |
| 14 | 社会問題の理解 (1) 日本社会と社会問題 | 社会問題の構築、新しい社会問題、転換期の社会問題、共生社会と権利、人権・生存権・社会権、社会運動、ネットワークングについて理解する |
| 15 | 学習のまとめ | 学習内容をふりかえり、専門用語や理論の体系と関連性を確認する |

| | | | | |
|---------------------------|--|-------|----------|-----------|
| 科目名 | 相談援助の基盤と専門職 I | | 科目ナンバリング | SSPA12001 |
| 担当者氏名 | 竹内 一夫 | | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2・必修 | 開講年次・開講期 |
| | | | | 1年・Ⅱ期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） | | | |

《授業の概要》

社会福祉の実践方法であるソーシャルワーク実践に不可欠な価値、態度、基本理念を理解することが本講義の目的である。Ⅰ期では、ソーシャルワーク援助の原点、現在までの発展過程を学び、そこから相談援助に不可欠な専門職としての価値、実践原理、利用者の人権擁護について、教科書に基づき学びを進める。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会編 第3版 新社会福祉士養成講座6「相談援助の基盤と専門職」中央法規出版、2015

《参考図書》

社会福祉士養成講座編集委員会編 新社会福祉士養成講座7「相談援助の理論と方法Ⅰ」 新社会福祉士養成講座8「相談援助の理論と方法Ⅱ」中央法規出版、2009

《授業の到達目標》

- ①ソーシャルワーク援助とはどのような福祉活動をいうのかが理解できるようになる。
- ②ソーシャルワーク援助専門職が求められる価値、態度、実践理論が理解できるようになる。
- ③ソーシャルワーク援助が、ノーマライゼーションの理論や、エンパワメントの理論と関連付けて説明できるようになる。

《授業時間外学習》

常に生活地域で、社会でどのような福祉問題が取り上げられ、どのような対応がなされているかに敏感になり情報を集めること。新聞やTVで、ネットで流される福祉問題の取り上げ方、そこに偏見や差別観などが潜んでいないかにも注意を払うこと。これらによって常に感性を磨いてほしい。

《成績評価の方法》

成績評価は、受講態度、定期試験、課題の達成によってなされるが、各項目の成績への関与率は、受講態度30%、定期試験50%、課題達成20%、であり、総合計で評価点が算出される。提出物については、コメントを付して返却する。

《備考》

専門職としての学びをするのであるから、特別な事情がない限り遅刻は認められない。専門職としての自覚を持って授業に臨むこと。授業中の携帯操作は禁止する。

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|---------------------------|---|
| 1 | 社会福祉に関わる専門職 | 社会福祉士、精神保健福祉士の法律における位置づけと専門性を検討するが、同時に現代社会における期待と養成における問題点について検討する。 |
| 2 | 現代社会で生きるということ | 現代社会での生活にみられる問題点と病理を検討する。また、地域社会の教育力、介護力、保育力の現状を検討し、福祉社会への移行のための課題について検討を加える。 |
| 3 | ソーシャルワークとはなに？ | 現代社会におけるソーシャルワークの概念、ソーシャルワークの諸定義について検討する。 |
| 4 | ソーシャルワークを構成する要素とは | ソーシャルワーク援助を構成する、クライアント、ワーカー、ターゲット、アクションの各システムと、援助者の価値、態度について検討する。 |
| 5 | ソーシャルワークの歴史 ① 前史 | 社会福祉確立までの歴史、特に相互扶助から慈善・博愛事業を中心に検討を加える。 |
| 6 | ソーシャルワークの歴史 ② 基礎の確立 | 専門的援助技術の確立への取り組みの中で、特にCOS運動が、近代ソーシャルワーク援助に貢献した個別記録と教育について検討する。 |
| 7 | ソーシャルワークの歴史 ③ 援助技術の確立 | 診断主義モデル、機能主義モデル、問題解決モデル、心理社会モデル、生態学モデル、生活モデルなど、現在に至るまでの各モデルの特徴を検討する。 |
| 8 | ソーシャルワークの歴史 ④ 統合モデルの検討 | 利用者援助における複数の援助技術の必要性を検討するとともに、サービスを統合するケアマネジメントにも言及する。 |
| 9 | ソーシャルワークの歴史 ⑤ グループの援助 | グループを対象とし、グループメンバーの相互作用を活用した援助の歴史とグループワークの援助モデルについて言及する。 |
| 10 | ソーシャルワークの援助 ⑥ 地域援助 | コミュニティデベロップメントから、コミュニティーオーガニゼーション、そしてコミュニティワークへの変遷について検討する。 |
| 11 | ソーシャルワーク実践と価値 | ウェルフェアから、ウェルビーイングへと社会福祉の援助目標が変化したなかで、社会福祉に携わるソーシャルワーカーの価値はどのような変化したのかを検討する。 |
| 12 | ソーシャルワーク実践と権利擁護 | 権利擁護とは、なぜ今権利擁護が必要とされるのか、我々専門職の目指す方向はどこかを検討する。エンパワメントの必要性についても検討する |
| 13 | ノーマライゼーションとは①ミクロレベル | ソーシャルワーク援助の目的の一つであるノーマライゼーションとは、その目的と、その援助方法とはについて検討する。まず個人のレベルを扱う。 |
| 14 | ノーマライゼーションとは②メゾレベル | ソーシャルワーク援助の目的の一つであるノーマライゼーションであるが、ここでは地域社会でのノーマライゼーションの展開を扱う |
| 15 | ノーマライゼーションとは③マクロレベル | ソーシャルワーク援助の目的の一つは、ノーマライゼーションであるが、ここでは法律、社会制度でのノーマライゼーションの展開を扱う。 |

| | | | |
|---------------------------|---|----------|-----------|
| 科目名 | 法学 | 科目ナンバリング | SFFA21004 |
| 担当者氏名 | 塩見 佳也 | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2・選択 |
| | | 開講年次・開講期 | 1年・Ⅱ期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 1-5 自己の言動や役割に対して責任を持つとする態度（社会的責任） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 基教-G 論理的思考力 | | |

《授業の概要》

この授業では刑法・民法を中心に法的責任の全体像を学ぶ。社会福祉試験『権利擁護と成年後見』の基本となる民法の知識を具体的イメージを深めかみ砕き具体例と法律の専門用語を関連づけ、ことばを理解しながら問題を解き、権利擁護や自分の身を守る為に必要な法知識・法的責任の基本を理解する。法律は自分や他人の生命・財産に直結する技術であるため容易なものではないが図や具体例を徹底すれば深い理解が可能である。

《授業の到達目標》

- ・社会福祉士試験に出題される法律問題を解くことができる
- ・契約に関する仕組み・法的責任について理解することができる
- ・成年後見制度の法的考え方を理解することができる
- ・損害賠償に関する法的考え方を理解することができる
- ・親子や夫婦関係、相続に関する基本的な法的考え方を理解することができる

《成績評価の方法》

・授業中の課題（20%）＋試験（70%）＋受講態度（10%）激しい私語は他者の受講及び授業進行を妨げる迷惑行為である。特に他者の受講利益の侵害となる場合、事態に応じた必要な措置を執る。自由は他者の自由を侵害するとき限界に直面する（危害原理）という理論は文明社会構成員の定番である。

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|-----------------------|---|
| 1 | 法とはどのようなものか？（ガイダンス） | ①さまざまな「規範」、法と道徳の相違と関連 ②法のことばと解釈 ③法的責任の全体像 ④三権分立（法律はどこで作られ、どう実行されるか） |
| 2 | 犯罪の捜査から刑（刑罰）の執行までの間 | ①捜査→逮捕→起訴→裁判・判決→刑罰 ②刑罰の種類 ③執行猶予とは？ |
| 3 | 罪と罰（刑法入門） | ①犯罪とは ②なぜ児童や重度精神障害者の犯罪行為は処罰されないのか？ ③医療と犯罪 ④妊娠中絶や脳死 ⑤とっさの反撃は罪か？（正当防衛・緊急避難） |
| 4 | 民事トラブルと刑事事件の違い | ①裁判によらない解決（示談、ADR） ②民事裁判と裁判上の和解 ③契約による権利義務の発生とその強制的実現方法 ④自力救済禁止の原則 |
| 5 | 民法の全体像 | ①民事上の権利と義務の発生 ②法における「人」（法人、代理） ③権利能力と行為能力（未成年・成年後見制度） |
| 6 | 共同する営みと法 | ①会社 ②学校・病院・社会福祉法人 ③NPO ④サークルや町内会 ⑤組合 ⑥物の共有 |
| 7 | 契約（1）全体像 | ①売買 ②賃貸借 ③消費貸借 ④雇用・請負・委任 ⑤贈与 ⑥契約の様々な性質 ⑦一般法と特別法（特別法は一般法を修正する） |
| 8 | 契約（2）買うこと・買うのをやめることと法 | ①売買契約の権利義務 ②キャンセルとは ③クーリングオフとは |
| 9 | 契約（3）借りることと法 | ①賃貸借契約と借地借家法 ②借金（金銭消費貸借契約）と「過払い金」 |
| 10 | 契約（4）仕事することと法 | ①雇用 ②労働基準法・労働契約法 ③請負 ④委任 ⑤準委任と医療 |
| 11 | 本人が望んでも契約を成立させない仕組み | ①成年後見制度の種類と保護者の権限 ②無効の後の後始末（不当利得返還請求権） |
| 12 | 不動産と法 | ①物権とは？ ②動産の売買との相違 ③おそるべき登記 ④担保物権とは？ ⑤財産権に対する法令上の規制と公用収用（個人の土地を国家が取り上げる権限） |
| 13 | さまざまな損害賠償（1）契約関係 | ①全体像 ②瑕疵担保責任 ③危険負担 ④債務不履行 ⑤医療事故・労働災害 |
| 14 | さまざまな損害賠償（2）事故や名誉毀損 | ①交通事故の治療費休業中の給料の行方 ②慰謝料とは？ ③ツイッターの気軽な発言が損害賠償沙汰に ④公害 |
| 15 | 家族と法 | ①法的に親族とはどの範囲か？ ②親子関係 ③結婚と離婚 ④相続 |

《テキスト》

伊藤真『ファーストトラック 民法』

《参考図書》

- ・川井健『はじめての民法』
- ・新社会福祉士養成講座『11 社会福祉サービスの組織と運営』
- ・新社会福祉士養成講座『19 権利擁護と成年後見』
- ・伊藤真『民法入門』
- ・各種行政書士国家試験テキスト

《授業時間外学習》

- ・指示された予習・復習課題を実施すること
- ・イラストや図、表を言葉にして書いてみる。そして友達にそれをもとに説明し、自分も友達の説明を聞いてみる。
- ・法律用語以外の難しいことばについて訓練し基礎学力を鍛え、文章読解力・論理思考力を訓練すること
- ・新聞を読むこと

《備考》

毎回ミニッツペーパーを提出し、授業のポイントの要約・質問・感想を記入すること。ミニッツペーパーに毎回5段階の授業および自己の学習態度への評価項目を記入すること。

| | | | |
|---------------------------|---|----------|-----------|
| 科目名 | 行政法 | 科目ナンバリング | SFFA21005 |
| 担当者氏名 | 塩見 佳也 | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2・選択 |
| | | | 開講年次・開講期 |
| | | | 1年・Ⅱ期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ◎ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 基教-G 論理的思考力 | | |

《授業の概要》

この授業では社会福祉行政に共通する法的知識を学ぶ。社会福祉試験『権利擁護と成年後見』の行政法科目をカバーする。法学の知識が前提となるため法学を受講すること。社会福祉は行政を手段として実施される場合が多く、2年次以降で学習する内容の共通する基本的な考え方・行政権の活動をめぐる全体的な知識をこの授業にて習得することを目指す。福祉活動以外にも警察や公共施設など身近な例を題材に法的な枠組を学ぶ。

《授業の到達目標》

- ・社会福祉士試験に出題される法律問題を解くことができる
- ・行政組織について理解することができる
- ・地方自治の法的考え方を理解することができる
- ・行政活動に関する法的考え方を理解することができる
- ・行政活動に対する権利救済手続に関する基本的な法的考え方を理解することができる
- ・生活保護や社会保障給付の法的仕組みを理解できる

《成績評価の方法》

・授業中の課題（20%）＋試験（70%）＋受講態度（10%）
 激しい私語は他者の受講及び授業進行を妨げる迷惑行為である。特に他者の受講利益の侵害となる場合、事態に応じた必要な措置を執る。自由は他者の自由を侵害するとき限界に直面する（危害原理）という理論は文明社会構成員の定番である。

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|------------------------|---|
| 1 | 行政法はどのようなものか？（ガイダンス） | ①法律と行政の関係 ②司法と行政の関係 ③社会福祉と行政（憲法25条との関係） |
| 2 | ゴミ屋敷を行政は強制的に撤去できるか？ | ①行政刑罰と刑事罰の関係 ②強制撤去（行政代執行） ③警察活動・消防・精神病院 |
| 3 | 国の行政組織の全体像 | ①行政権と内閣 ②国家行政組織法 ③厚生労働省と医療薬品食品福祉二関する行政活動と実施組織と手段 |
| 4 | 国の行政の「立法」活動（行政立法とは？） | ①法令とは？ ②法規命令 ③行政規則 ④法律との関係（法律による行政の原理） |
| 5 | 地方の行政組織の全体像 | ①伝統的な国と地方の関係 ②地方分権 ③地方公共団体の組織 ④地方議会と条例 ⑤首長の権限 |
| 6 | 公共施設を民間で管理すること | ①指定管理者制度 ②PFIによる刑務所の運営 ③「公私協働」の拡大と社会福祉 |
| 7 | 行政手続と行政が守らなければならないルール | ①申請と処分 ②届出 ③行政指導 ④行政手続法制定の意義 ⑤不利益処分と行政の事前手続 |
| 8 | 営業許可・営業停止命令・運転免許などの仕組み | ①行政行為とは（行政処分を中心に） ②行政行為の効果と「公定力」（間違った決定にも効果が生じてしまう） ③行政行為の内容に問題がある場合（取消と無効） |
| 9 | 行政の判断ミスはどうコントロールするか？ | ①行政裁量（行政が自由に判断できることと法律に縛られること） ②行政行為の無効と取消 ③行政処分の撤回（いわゆる免停とは） ④裁判例の紹介 |
| 10 | 行政に対するチェック体制の全体像 | ①行政不服審査法と行政事件訴訟法の概要 ②国家賠償法の概要 ③損失補償と土地収用 |
| 11 | 社会福祉活動と行政不服審査法 | ①様々な不服申立制度 ②国民年金法・健康保険法・介護保険法と社会保険審査会 |
| 12 | 社会福祉の申請が拒否されたとき | ①行政事件訴訟法の取消訴訟 ②裁判をするうえでの資格 |
| 13 | 行政にやるべき仕事をさせる仕組み | ①義務付け訴訟 ②不作為の違法確認訴訟 |
| 14 | 行政の活動による被害への救済 | ①国家賠償法1条（パトカーのひき逃げや薬害など） ②民法の使用者責任（民715条）との関係 ③国家賠償法2条の対象（道路や堤防の破損による被害） |
| 15 | 情報と行政 | ①個人情報とは？ ②医療・社会福祉における情報管理 ③情報公開と市民の自治・自律 ④プライバシー権 |

《テキスト》

伊藤真『ファーストトラック 行政法』

《参考図書》

- ・曾和俊文・山田洋・亘理格『現代行政法入門』
- ・新社会福祉士養成講座『11 社会福祉サービスの組織と運営』
- ・新社会福祉士養成講座『19 権利擁護と成年後見』
- ・伊藤真『民法入門』
- ・各種行政書士国家試験テキスト

《授業時間外学習》

- ・指示された予習・復習課題を実施すること
- ・イラストや図、表を言葉にして書いてみる。そして友達にそれをもとに説明し、自分も友達の説明を聞いてみる。
- ・法律用語以外の難しいことばについて訓練し基礎学力を鍛え、文章読解力・論理思考力を訓練すること
- ・新聞を読むこと

《備考》

毎回ミニッツペーパーを提出し、授業のポイントの要約・質問・感想を記入すること。ミニッツペーパーに毎回5段階の授業および自己の学習態度への評価項目を記入すること。

《専門教育科目 専門基礎科目》

| | | | |
|---------------------------|---|----------|-----------|
| 科目名 | 生涯発達心理学 | 科目ナンバリング | SFFA21006 |
| 担当者氏名 | 原 志津 | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2・選択 |
| | | 開講年次・開講期 | 1年・I期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ◎ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） | | |

《授業の概要》

従来の「発達心理学」は、乳幼児期から青年期までをその領域としていたが、近年の人の長寿化傾向と高齢化社会を背景に、成人期から高齢期までを含む「生涯発達心理学」として考えられるようになってきた。この授業では、人間の誕生前後から死に至るまでの一生涯を対象とし、人は一生発達し・成熟していくという存在であるということを様々な教材を用いて考えていきたい。

《授業の到達目標》

発達心理学や生涯発達心理学で用いられる基礎的な用語について説明できる。
 発達段階ごとの発達課題や発達段階の問題について説明できる。
 自分自身を生涯発達する者として認識し、向上しようとする意欲が持てる。また出会う人に対しても、そのような意識をもって尊重し、その方の可能性を見いだせるような視点を持てる。

《成績評価の方法》

受講態度 30%
 日常のレポート 20%
 授業最終日のまとめ 50%
 提出物については、コメントを付して返却する。

《テキスト》

「感じることば」黒川伊保子 河出文庫（本体630円）

《参考図書》

授業中に随時紹介する

《授業時間外学習》

人生に関する新聞記事などの印刷物を目にしたらメモしておく。終末期を考える講演会などに積極的に参加し最新の生涯福祉の情報を得て今後活かせるように学ぶ。

《備考》

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|-------------|--------------------------------------|
| 1 | オリエンテーション | 生涯発達心理学の考え方を知る |
| 2 | 胎児期・新生児期 | ヒトとしての発達は、胎内にいる時から始まっているのか、ということを考える |
| 3 | 乳児期 | 乳児が「泣く」ことと母親との相互関係について学ぶ |
| 4 | 幼児期 | 幼児期に獲得する力・社会性の発達について知る |
| 5 | 児童期 | 児童期に獲得する力を知る |
| 6 | 青年期① | 思春期について知る |
| 7 | 青年期② | アイデンティティーの統合について考える |
| 8 | 成人期① | 他者と社会との関わりについて知る |
| 9 | 成人期② | 一人前になること（パートナーとの関係・仕事・子育て）について考える |
| 10 | 中年期① | 中年期の危機について知る |
| 11 | 中年期② | 『人生の後半からの心理学』ユングの心理学について知る |
| 12 | 高齢期① | 時計の時間とこころの時間について考える |
| 13 | 高齢期② | 高齢者の知恵をどのように発揮するか考える |
| 14 | 生涯発達心理学 | 死に至るまでの限りある生をいかに生きるか・自己実現について考える |
| 15 | 生涯発達心理学のまとめ | 全体のふり返しを行う |

《専門教育科目 専門基礎科目》

| | | | |
|---------------------------|---|----------|-----------|
| 科目名 | 基礎ゼミナール I | 科目ナンバリング | SFFA11007 |
| 担当者氏名 | 吉原 恵子、竹内 一夫、小倉 毅 | | |
| 授業方法 | 演習 | 単位・必選 | 2・必修 |
| | | 開講年次・開講期 | 1年・I期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる (知識・理解) ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる (論理的思考力、情報リテラシー) ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる (分析力、プレゼンテーション力) ◎ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる (地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ) ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる (共感力、観察力、問題発見力) | | |

《授業の概要》

本演習は、(1)学ぶ空間であるキャンパスにできるだけ早く慣れ、(2)大学の授業を受けるための基礎的学習スキルを身につけ、(3)4年間の見通しをもって専門教育への準備ができるようになること、また、学生生活を自分自身で設計し管理できるようにすることを目的としている。この演習は少人数で構成され、相互に交流をはかりながら、個々人の能力を開発し発揮することをめざす。

《授業の到達目標》

- (1) 大学環境を知り、活用できるようになる
- (2) 大学での学び方を身につける
- (3) 大学生に必要な学習スキルを習得する
- (4) 4年間の学習方針を明確にする
- (5) 生活や問題、社会についての基礎知識を身につける
- (6) 社会福祉の基礎用語を理解し、説明できる
- (7) 社会福祉の各分野の内容をまとめることができる

《成績評価の方法》

- ・ 授業への参加態度およびグループ活動等における協力等 (意欲・関心、協力性20%)
- ・ 報告や発表における成果(表現力・発信力20%)
- ・ 提出物と確認テストの結果(文章力、知識とスキルの獲得度60%) ※課題提出が遅れた場合は減点する。

《テキスト》

指定しない。

《参考図書》

- ・ 『ステディスキルズ・トレーニング』(2011, 実教出版)
- ・ 『プラクティカル・プレゼンテーション』(2005, くろしお出版)
- ・ 『大学生の学び・入門』(2006, 有斐閣アルマ)
- ・ 『躍進するソーシャルワーク活動』(2013, 中央法規出版)
- ・ 『社会福祉用語辞典』(2012, 中央法規出版)

《授業時間外学習》

・ 「生活を知る、問題を知る、社会を知る」ために、日頃よりニュースや新聞等を読み、時事問題に関心をもつこと。

・ 学んだことや気づきなどをまとめ、学修成果をふりかえるため、配布された資料、作成した課題等を整理し保存すること。

《備考》

・ 課題は、提出要領にしたがい、期日や提出場所等を厳守し提出すること。

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|---------------------------|---|
| 1 | オリエンテーション(1) | 1. 社会福祉を学ぶとは 2. 基礎ゼミナール内容・流れについて 3. シラバスとキャンパスガイドの内容について 4. 社会福祉の基礎用語学習について 5. 履修登録について |
| 2 | オリエンテーション(2) | 1. ライブラリーツアー 2. 学習支援センター・ラーニングコモンズツアー 3. 学習時間、生活時間の管理と大学での学び 4. 対人援助専門職を目指す私の人間作り |
| 3 | スタディ・スキルズ(1) | 1. 講義の受け方、ノートテイキング 2. 四年間の学びの流れについて 3. 大学生活におけるマナー、モラル、リスク管理等 |
| 4 | スタディ・スキルズ(2) | 1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録 (レポート) 3. 基礎用語確認テスト(1) |
| 5 | スタディ・スキルズ(3) | 1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録 (レポート) |
| 6 | スタディ・スキルズ(4) | 1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録 (レポート) 3. 基礎用語確認テスト(2) |
| 7 | スタディ・スキルズ(5) | 1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録 (レポート) |
| 8 | スタディ・スキルズ(6) | 1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録 (レポート) 3. 基礎用語確認テスト(3) |
| 9 | スタディ・スキルズ(7) | 1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録 (レポート) |
| 10 | 社会福祉の各分野の理解 (1) 低所得者 | 1. 調べる、考える、報告する、2. 学んだこと、気づきの記録 (レポート) 3. 基礎用語確認テスト(4) 4. 夏季ボランティアの準備 |
| 11 | 社会福祉の各分野の理解 (2) 高齢者 | 1. 調べる、考える、報告する、2. 学んだこと、気づきの記録 (レポート) 3. 夏季ボランティアの準備 |
| 12 | 社会福祉の各分野の理解 (3) 母子及び父子 | 1. 調べる、考える、報告する、2. 学んだこと、気づきの記録 (レポート) 3. 基礎用語確認テスト(5) 4. 夏季ボランティアの準備 |
| 13 | 社会福祉の各分野の理解 (4) 障害者 | 1. 調べる、考える、報告する、2. 学んだこと、気づきの記録 (レポート) 3. 夏季ボランティアの準備 |
| 14 | 社会福祉の各分野の理解 (5) 児童 | 1. 調べる、考える、報告する、2. 学んだこと、気づきの記録 (レポート) 3. 基礎用語確認テスト(6) |
| 15 | I期のふり返り | 1. 期の履修状況のふり返り 2. その他 (II期に向けて、夏休み課題等) |

| | | | |
|---------------------------|--|----------|-----------|
| 科目名 | 基礎ゼミナールⅡ | 科目ナンバリング | SFFA11008 |
| 担当者氏名 | 吉原 恵子、竹内 一夫、小倉 毅 | | |
| 授業方法 | 演習 | 単位・必選 | 2・必修 |
| | | 開講年次・開講期 | 1年・Ⅱ期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる（論理的思考力、情報リテラシー） ○ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力） ○ 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） | | |

《授業の概要》

I期の「生活を知る、問題を知る、社会を知る」を土台として、「支援を知る、資源を知る、人を知る」ことを目的として、引き続き、「調べる・考える・報告する」スキルを身につける。また、知識を整理しまとめる力を養うとともに、福祉課題とそれへの対応をまとめ報告する。夏休みには、ボランティアに参加し、地域の具体的な福祉課題について関心を高め、より実践的な能力を身につける。

《授業の到達目標》

- (1) 大学生に必要な学習スキルを習得する
- (2) 学びをふりかえり、気づきをまとめることができる
- (3) 支援・資源・人についての基礎知識を身につける
- (4) 知識を整理しまとめる力を身につける
- (5) 社会福祉の基礎用語を理解し、説明できる
- (6) 福祉課題とそれへの対応をまとめて報告できる

《成績評価の方法》

- ・ 授業への参加態度およびグループ活動等における協力等（意欲・関心、協力性20%）
- ・ 報告や発表における成果（表現力・発信力20%）
- ・ 提出物と確認テストの結果（文章力、知識とスキルの獲得度60%） ※課題提出が遅れた場合は減点する。

《テキスト》

指定しない。

《参考図書》

- ・ 『ステディスキルズ・トレーニング』（2011, 実教出版）
- ・ 『大学生の学び・入門』（2006, 有斐閣アルマ）
- ・ 『福祉キーワードシリーズ ボランティア・NPO(第2版)』（2004, 中央法規出版）
- ・ 『社会福祉用語辞典』（2012, 中央法規出版）

《授業時間外学習》

・ 「支援を知る、資源を知る、人を知る」ために、日頃よりニュースや新聞等を読み、福祉の課題や問題に関心をもつこと。

・ 学んだことや気づきなどをまとめ、学修成果をふりかえるため、配布された資料、作成した課題等を整理し保存すること。

《備考》

・ 課題は、提出要領にしたがい、期日や提出場所等を厳守し提出すること。

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|------------------------|--|
| 1 | オリエンテーション(2) | 1. 夏季ボランティア経験の共有とまとめ 2. Ⅱ期履修についての指導 |
| 2 | スタディ・スキルズ(8) | 1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録（レポート） 3. I期で取り扱った社会福祉の諸問題への支援や、そのために使える社会資源について探究する。 |
| 3 | スタディ・スキルズ(9) | 1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録（レポート） |
| 4 | スタディ・スキルズ(10) | 1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録（レポート） 3. 基礎用語確認テスト(1) |
| 5 | スタディ・スキルズ(11) | 1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録（レポート） |
| 6 | スタディ・スキルズ(12) | 1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録（レポート） 3. 基礎用語確認テスト(2) |
| 7 | スタディ・スキルズ(13) | 1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録（レポート） 3. 二年次に向けての学びの姿勢、問題意識、学習の進め方について |
| 8 | スタディ・スキルズ(14) | 1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録（レポート） |
| 9 | スタディ・スキルズ(15) | 1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録（レポート） 3. 基礎用語確認テスト(3) |
| 10 | スタディ・スキルズ(16) | 1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録（レポート） |
| 11 | 福祉課題とそれへの対応をまとめ報告する(1) | 1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録（レポート） 3. 基礎用語確認テスト(4) |
| 12 | 福祉課題とそれへの対応をまとめ報告する(2) | 1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録（レポート） |
| 13 | 福祉課題とそれへの対応をまとめ報告する(3) | 1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録（レポート） |
| 14 | 福祉課題とそれへの対応をまとめ報告する(4) | 1. 調べる、考える、報告する 2. 学んだこと、気づきの記録（レポート） 3. 基礎用語確認テスト(5) |
| 15 | Ⅱ期のふり返り | 1. Ⅱ期の学修状況と生活のふり返り 2. 二年次の学修の目標と計画 |

《専門教育科目 相談援助共通科目》

| | | | |
|---------------------------|---|----------|-----------|
| 科目名 | 現代社会と福祉 I | 科目ナンバリング | SSPB11009 |
| 担当者氏名 | 村田 陽子 | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2・必修 |
| | | 開講年次・開講期 | 1年・I期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） | | |

《授業の概要》

本講義では、社会福祉の理念、理論と実践事例を中心に、私たちの地域社会の中のさまざまな問題を考察していく。参考資料や視聴覚教材を用い、受講生が身近な問題として理解し、社会福祉の視点をもって問題そのものだけでなく一人ひとりが抱えている思いを理解し、問題解決にむけての支援にむけての力を身につける。

《テキスト》

『現代社会と福祉』新・社会福祉士養成講座（4）、中央法規出版

《参考図書》

適宜提示する。

《授業の到達目標》

(1) 社会福祉の理念、理論を理解し説明できる。(2) 福祉制度、社会資源を理解し説明できる。(3) 社会福祉の生活問題を一人の人間としての思いと生活の理解を深め、考察することができる。

《授業時間外学習》

(1) 予習：適宜予習課題、およびテキスト中の該当箇所を指示する。(2) 復習：授業内容の再確認と学びを深める努力をすること。理解が十分でない事項は、積極的に担当者に質問したり、関連文献を利用し大学生として学びを深める努力が必要である。

《成績評価の方法》

(1) 授業内討論等への参加とその成果 (20%) 課題等の提出物 (80%)。提出物は期限厳守のこと。

《備考》

社会福祉に限らず、広く社会事象に関心をもつこと。新聞、ニュース等報道を理解すること。

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|--------------|--------------------------|
| 1 | オリエンテーション | 1年の講義の概要説明、講義計画、受講方法について |
| 2 | 社会福祉の概念 | 社会福祉とは何か |
| 3 | 社会福祉の構造 | 社会福祉の構成要素 |
| 4 | 社会福祉の視点（1） | 社会福祉は何を問題とするのか |
| 5 | 社会福祉の視点（2） | 社会福祉の対象とは |
| 6 | 社会福祉の理念（1） | 社会福祉の歴史と理念 |
| 7 | 社会福祉の理念（2） | 機会平等（1） |
| 8 | 社会福祉の理念（3） | 機会平等（2） |
| 9 | 社会福祉の理念（4） | ノーマライゼーション |
| 10 | 社会福祉の理念（5） | ノーマライゼーションと実践 |
| 11 | 社会福祉の理念（6） | 実践における課題 |
| 12 | 社会福祉と法制度 | 社会福祉における法律 |
| 13 | 地域社会と生活問題（1） | 地域社会における生活問題とは |
| 14 | 地域社会と生活問題（2） | 人間理解と生活問題の理解 |
| 15 | まとめ | まとめ |

《専門教育科目 相談援助共通科目》

| | | | | | |
|---------------------------|----------|---|----------|-----------|-------|
| 科目名 | 現代社会と福祉Ⅱ | | 科目ナンバリング | SSPB11010 | |
| 担当者氏名 | 村田 陽子 | | | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2・必修 | 開講年次・開講期 | 1年・Ⅱ期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | | ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ◎ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） | | | |

《授業の概要》

本講義では、社会福祉の理念、理論と実践事例を中心に、私たちの地域社会の中のさまざまな問題を考察していく。参考資料や視聴覚教材を用い、受講生が身近な問題として理解し、社会福祉の視点をもって問題そのものだけでなく一人ひとりが抱えている思いを理解し、問題解決にむけての支援にむけての力を身につける。

《テキスト》

『現代社会と福祉』新・社会福祉士養成講座（4）、中央法規出版

《参考図書》

適宜提示する

《授業の到達目標》

(1) 社会福祉の理念、理論を理解し説明できる。(2) 福祉制度、社会資源を理解し説明できる。(3) 社会福祉の生活問題を一人の人間としての思いと生活の理解を深め、考察することができる。

《授業時間外学習》

(1) 予習：適宜予習課題、およびテキスト中の該当箇所を指示する。(2) 復習：授業内容の再確認と学びを深める努力をすること。理解が十分でない事項は、積極的に担当者に質問したり、関連文献を利用し大学生として学びを深める努力が必要である。

《成績評価の方法》

(1) 授業内討論等への参加とその成果（20%）(2) 課題等の提出物（80%）。提出物は期限厳守のこと。

《備考》

社会福祉に限らず、広く社会事象に関心をもつこと。新聞、ニュース等報道を理解すること。

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|-------------|---|
| 1 | 社会福祉の支援 | 社会福祉の支援とは |
| 2 | 自立（1） | 自立とは |
| 3 | 自立（2） | 自立支援の実際 |
| 4 | 自立支援の課題 | 自立支援の実際と課題、展望 |
| 5 | 人間の尊厳（1） | 人間の尊厳、かけがえのなさとは |
| 6 | 人間の尊厳（2） | 人間の尊厳、かけがえのなさとは |
| 7 | 人間の尊厳（3） | 人間の尊厳をまもる支援 権利擁護 |
| 8 | 地域での生活問題（1） | 地域社会における生活問題と支援、生活問題を抱える人の思いの理解 |
| 9 | 地域での生活問題（2） | 地域社会における生活問題と支援、生活問題を抱える人の生活理解 |
| 10 | 地域での生活問題（3） | 地域社会における生活問題と支援、生活問題を抱える人を支えるということ |
| 11 | 地域での生活問題（4） | 地域社会における生活問題と支援、生活問題を抱える人を支えるということ、制度利用 |
| 12 | 地域での生活問題（5） | 地域社会における生活問題と支援、権利擁護 |
| 13 | 社会福祉の課題 | 現代社会における社会福祉の課題 |
| 14 | 社会福祉の展望 | 社会福祉の展望、私たちは何ができるのか |
| 15 | まとめ | まとめ |

| | | | | | |
|---------------------------|---|-------|----------|-----------|-------|
| 科目名 | 社会調査の基礎 | | 科目ナンバリング | SSWB21011 | |
| 担当者氏名 | 田端 和彦 | | | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2・選択 | 開講年次・開講期 | 1年・Ⅱ期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 2-1 収集したデータを集約し効果的に表現することができる（分析力、プレゼンテーション力） | | | | |

《授業の概要》

社会福祉に必要な社会調査の意義と歴史を学びます。量的な調査方法ではアンケート調査の一連の手続き、そしてデータを整理しそこから社会的事象を見出すための統計的な知識を身につけます。質的な調査方法では、観察、インタビューの方法、その分析の方法を学びます。個人情報保護など、社会調査を行う上での注意事項についても理解します。

《テキスト》

社会福祉士養成講座編集委員会『社会調査の基礎』中央法規

《参考図書》

授業内で指示します。また関連する部分については、プリントを用意します。

《授業の到達目標》

アンケート、取材、観察などソーシャルワークに必要な社会調査の手法を身に付けることができます。公表された統計表、アンケート調査の結果、また集めたデータを整理して示し、社会事象を読み取るために統計に関する基礎的な知識を身につけます。これらを通し、地域社会での社会的弱者のおかれた総合的な状況を理解することができます。

《授業時間外学習》

事前にテキストの指示する部分を読んでおいてください。宿題を課すことがありますので、それを行ってください。授業の実施に必要です。

《成績評価の方法》

定期試験により評価を行います（80%）。このほか授業態度も評価に含めます（20%）。

《備考》

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|-------------------|---|
| 1 | ガイダンス／社会科学と社会調査 | 社会福祉分野で社会調査が必要な背景や社会科学と社会調査、社会福祉の関係を学びます。 |
| 2 | 社会調査の歴史① | イギリスのブースの貧困調査など社会調査の歴史とその役割を振り返り社会福祉での位置づけを理解します。 |
| 3 | 社会調査の歴史② | シカゴ学派による社会調査やフィッシャーによる推計学の導入、優生学につながる悲劇など、社会調査を取り巻く近代の歴史を理解します。 |
| 4 | 統計法と統計制度 | 国家と統計の関係から、民主的な公的統計のあり方を学びます。日本の統計制度を統計法をもとに解説をし、社会福祉に必要な統計について学びます。 |
| 5 | 量的調査と質的調査 | 公的統計調査やアンケート調査など量的調査と観察など質的調査の違い、また横断的調査、縦断的調査など調査の考え方の基本を学びます。 |
| 6 | 母集団と標本集団 | アンケート調査に必要な集団の考え方を理解し、母集団から標本集団を抽出する方法を学びます。 |
| 7 | アンケート調査の方法① | 調査の設計と調査目的の明確化、正確な調査を行うためのワーディングなどを学び、アンケート調査を作成するための基礎的な内容を理解します。 |
| 8 | アンケート調査の方法② | 調査票の配布回収方法など、実際にアンケート調査を行う場合に注意すべき点などについて把握します。 |
| 9 | 量的調査のデータ解析① | 尺度水準などデータ分析の基本と1変量、2変量、多変量での分析方法の違いを踏まえ、1変量の場合の記述統計、単純集計などの分析手法を学びます。 |
| 10 | 量的調査のデータ解析② | 引き続き、1変量での分析方法を学ぶとともに、2変量での分析方法である、回帰分析、相関分析について学びます。 |
| 11 | 量的調査のデータ解析③ | 重回帰分析など、多変量解析の解説を行うほか、仮説検定の基本を学び、その概念を理解します。 |
| 12 | インタビューの手法 | 構造化インタビュー、非構造化インタビューについて学びます。インタビューの記述方法について学びます。 |
| 13 | 観察の方法／質的調査のデータ解析① | 参与観察、非参与観察の特徴と違いを理解します。質的データ調査の分析方法として、グランデットセオリーの考え方を学びます。 |
| 14 | 質的調査のデータ解析② | 引き続き、グランデットセオリーの考え方を学び、またKJ法などについても学びます。 |
| 15 | 個人情報保護と社会調査の結果の利用 | 個人情報保護の重要性を理解します。調査の実施や公表に関する倫理について学びます。 |

| | | | | | |
|---------------------------|---|-------|----------|-----------|-------|
| 科目名 | 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 | | 科目ナンバリング | SSWB22016 | |
| 担当者氏名 | 小倉 毅 | | | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2・選択 | 開講年次・開講期 | 1年・I期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感性、観察力、問題発見力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） ○ 3-4 地域で人々を力づけ政策の形成や変容を促すことができる（アドボカシー） | | | | |

《授業の概要》

少子・高齢化が進むなか、子どもや子育て家庭がおかれている状況も複雑化しており、さまざまな視点から支援していかなければならない。そこで、児童福祉を实践するために必要な児童福祉理念や意義、法体系を理解するとともに、母子保健、障がい、子育て支援、ひとり親家庭、社会的養護、非行、情緒障がい、児童虐待、家庭内暴力などの分野別の現状と施策を把握し、それぞれの課題を考察していく。

《テキスト》

- ①社会福祉士養成講座編集委員会 新・社会福祉士養成講座 15 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 中央法規
- ②福祉小六法 みらい

《参考図書》

第3版 児童家庭福祉 小倉毅・松井圭三 編 大学教育出版

《授業の到達目標》

- ・児童・家庭福祉の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際を理解する。
- ・児童の定義と権利、児童福祉法など各法制度を理解する。
- ・現代の児童・家庭福祉について論じることができる。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法
下記の授業計画はテキストに準拠しています。該当する箇所を前もって読んでおくようにして下さい。
- (2) 復習の方法
授業中に整理するプリントを中心に復習して下さい。また、理解が十分でない場合には、積極的に質問して下さい。

《成績評価の方法》

- (1) 授業への参加とその成果 (20%)
授業への参加態度・成果については随時説明します。
- (2) レポート・小テスト (20%)
分からないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。
- (3) 定期試験 (60%)

《備考》

- ①私語をはじめ、他の受講者の迷惑なる行為は慎むこと。
- ②特別な事情がないかぎり、遅刻は一切認めません。
- ③質問は、授業中もしくはオフィスアワーで受け付けます。

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|--------------------|--|
| 1 | 現代社会と児童・家庭の問題 | 現代社会が生み出す子育て・子育ての実情と近年の子育て・子育て支援の仕組みを理解する。 |
| 2 | 児童・家庭福祉の理念 | 児童・家庭福祉は、保護者による私的責任（自助）を核にして、社会的責任（共助）、公的責任（公助）が関与することによって成立していることを理解する。 |
| 3 | 児童の権利保障、児童・家庭福祉の歩み | 児童を権利主体として認め、その福祉を実現するようになった経過を、日本および英米の制度の展開及び具体的な活動の歩みを通して理解する。 |
| 4 | 児童・家庭福祉の法制度 | 児童福祉法をはじめとして、児童福祉六法及び児童虐待の防止等に関する法律など、児童・家庭福祉に関係する法律を理解し、児童福祉制度の概要を把握する。 |
| 5 | 児童・家庭福祉の行政機関と施設 | 児童・家庭福祉サービスの体系、行政機関・児童福祉施設等の実施体制、サービスの利用方式を理解するとともに、サービスが計画的に推進されていることを理解する。 |
| 6 | 児童・家庭福祉の専門職 | 児童と家庭福祉に関係する行政機関と施設の専門職について理解する。 |
| 7 | 分野別課題と施策 ①母子保健 | 母子保健の歩みと現状を踏まえながら、母子保健の制度・施策を理解し、その課題を考える。 |
| 8 | ②障がい・難病のある児童と家族 | 障がいや難病のある児童と家族の実情を踏まえながら、児童や家族のライフコースの視点に立ち支援の制度・施策を理解し、その課題を考える。 |
| 9 | ③保育・子育て支援 | 少子化の進行、家庭や地域の養育機能の変化を踏まえながら、保育・子育て支援の取り組みを理解し、その課題を考える。 |
| 10 | ④ひとり親家庭 | ひとり親家庭の現状を踏まえながら、ひとり親家庭の福祉施策の概要を理解し、その課題を考える。 |
| 11 | ⑤児童の社会的養護 | 児童の社会的養護への取り組み方の変遷を踏まえながら、家庭支援型・家庭補完型・家庭代替型社会的養護の仕組みを理解し、その課題を考える。 |
| 12 | ⑥非行児童・情緒障がい児 | 非行児童と情緒障がい児の動向を踏まえながら、非行児童と情緒障がい児とその家族への支援に関する施策を理解し、その課題を考える。 |
| 13 | ⑦児童虐待 | 児童虐待の実態を踏まえながら、児童を虐待から保護する仕組みを理解し、その課題を考える。 |
| 14 | ⑧ドメスティック・バイオレンス | 婦人保護から女性福祉への変遷を踏まえながら、家庭内暴力における児童・家庭に関する女性を支援するための制度・施策を理解し、その課題を考える。 |
| 15 | 児童・家庭への相談援助活動 | 児童・家庭福祉の理念および制度を踏まえながら、児童・家庭福祉分野における相談援助活動の留意点を理解する。 |

《専門教育科目 相談援助共通科目》

| | | | | | |
|---------------------------|---|-------|----------|-----------|-----------|
| 科目名 | 相談援助実習指導 I | | 科目ナンバリング | SSWB21012 | |
| 担当者氏名 | 田端 和彦、竹内 一夫、稲富 恭 | | | | |
| 授業方法 | 実習 | 単位・必選 | 1・選択 | 開講年次・開講期 | 1年・通年(I期) |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度 (知的好奇心) ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる (知識・理解) ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる (論理的思考力、情報リテラシー) ○ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる (自己管理能力) ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる (知識・技能の統合) | | | | |

《授業の概要》

実習先となる、高齢者施設、障害者施設、児童施設等での福祉の仕事を利用者理解や人権、福祉の専門職としての倫理などの観点を踏まえ学習します。後半、そうした施設でのボランティアを10日間行い、利用者へ接し支援者とともに過ごし、福祉の仕事の一端に触れます。授業ではボランティアを通して何を身に付けるのかを考えるために、ボランティア計画を作成します。

《授業の到達目標》

実習を行う分野に関わる施設について、体制やサービス内容だけでなく、福祉の仕事に携わるものに必要な、倫理や人権への理解を深めます。さらに利用者の理解が、実習先施設の理解に不可欠であることを鑑み、それを施設でのボランティアを通して体得します。

《成績評価の方法》

授業を受ける態度、グループワークでの発言等の状況、ボランティア計画、レポート、授業内で課す理解度テスト、そしてボランティアに臨む態度の総合点で判断をします。提出物についてはコメントを付記して返却する。

《テキスト》

日本社会福祉士養成校協会 (監修)、長谷川匡俊、上野谷加代子、白澤 政和他編「社会福祉士相談援助実習 (第2版)」中央法規出版

《参考図書》

授業中に指示をします。

《授業時間外学習》

事前課題として用語等について調べることを課します。授業中に作成したワークシート等に基づいてボランティア計画の作成も授業時間外での課題とします (後半)。なお10日間のボランティアは夏季休暇期間等の授業時間外に行います。

《備考》

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|----------------------|---|
| 1 | ガイダンス/相談援助実習 I の位置づけ | 相談援助実習全体における相談援助実習指導 I の位置づけと目的を理解します。 |
| 2 | 福祉の仕事① (高齢者) | 福祉の仕事に必要な、人権や倫理、さらに利用者理解について高齢者施設等での高齢者への支援の事例を通して学びます。 |
| 3 | 福祉の仕事② (児童施設) | 児童が生活や支援の拠り所とする児童施設の事例によって、一層の人権への配慮が必要とされる児童の理解を深め、福祉の仕事について学びます。 |
| 4 | 福祉の仕事③ (障害) | 障害者を支援する施設で働く社会福祉士の姿を通し、地域での生活を可能にするため必要な利用者の理解や人権への配慮などを含め福祉の仕事を学びます。 |
| 5 | 福祉の仕事④ (児童家庭) | 家庭で生じる児童の問題について、親を共に支えながら問題解決を図っていきます。そうした姿を通し、児童家庭を支援する福祉の仕事を学びます。 |
| 6 | 福祉の仕事⑤ (更生保護・低所得者) | 地域において困難な課題を抱える人々、例えば低所得による貧困からの立ち直りや非行からの更生など、人々の自立に向けて支援を行う福祉の仕事について学びます。 |
| 7 | ボランティアについて① | 主に夏休み期間中、ボランティアを行います。福祉の仕事に欠くことのできない、自律の精神、奉仕の心を理解するために必要になるからです。概要を説明します。 |
| 8 | ボランティアについて② | 具体的には、6月～9月の間、10日間について、1つの施設でのボランティアを行います。ボランティアでは何を学ぶべきなのかを説明します。 |
| 9 | 接遇①基本的なマナー | ボランティアとして施設に「入る」ことになる場合、利用者やその家族と接するにあたり、社会人としての行動が求められます。そうしたマナーの基本を学びます。 |
| 10 | 接遇②基本的なマナー | 引き続き、マナーを学びます。これらを通し社会人としての行動ができるようになります。 |
| 11 | ボランティアについて③ | ボランティアの定義やその考え方、ボランティアでの課題、現状などを説明します。 |
| 12 | ボランティアについて④ | これまでの学びを踏まえ、自分のボランティアの内容 (施設の種類や業務) をワークシートを使って考えてみましょう。これがボランティア計画に繋がります。 |
| 13 | 接遇③ロールプレイ・グループワーク | ロールプレイ、グループワークを通し、利用者との関わりについて学びます。 |
| 14 | ボランティア現場のマナーについて | ボランティアの現場で困らないように、手続きなどの説明があります。 |
| 15 | ボランティア計画の報告・共有 | 作成したボランティア計画を報告し、現場でどのような学びができるのか、学生相互に共有します。 |

《専門教育科目 相談援助共通科目》

| | | | |
|---------------------------|---|----------|-----------|
| 科目名 | 相談援助実習指導 I | 科目ナンバリング | SSWB21012 |
| 担当者氏名 | 田端 和彦、竹内 一夫、稲富 恭 | | |
| 授業方法 | 実習 | 単位・必選 | 1・選択 |
| | | 開講年次・開講期 | 1年・通年(Ⅱ期) |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度 (知的好奇心) ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる (知識・理解) ○ 1-3 適切な情報を収集して読み解く力、文章を作成してまとめることができる (論理的思考力、情報リテラシー) ◎ 1-4 学習計画を立てルールや時間を守って課題を完成できる (自己管理能力) | | |

《授業の概要》

多職種での利用者支援では職員間の専門的なディスカッションを把握し方向づける役割が社会福祉士にはあります。ボランティアでの観察で見出すディスカッション力を考察し学びます。また利用者の生活の質 (QOL) の向上や残存能力の維持に関連するレクリエーションについて、Ⅰ期におけるボランティアの経験などを踏まえ、企画を行います。実習に必要な現場での実践に関する知識の獲得と演習を通して、実習に備えます。

《授業の到達目標》

職員らと接してコミュニケーションを取り、それらの議論を通して利用者の支援を方向付けるための基礎的な技術や知識を身につけます。またグループワークなどを通して、今後の実習の際に必要な企画力や報告書の作成に必要な基礎的な知識や技術を身につけることができます。

《成績評価の方法》

授業を受ける態度、グループワークでの発言等の状況、課題やレポート、及び授業内での理解度テスト結果の総合点で判断をします。提出物についてはコメントを付記して返却する。

《テキスト》

日本社会福祉士養成校協会 (監修)、長谷川匡俊、上野谷加代子、白澤 政和他編「社会福祉士相談援助実習 (第2版)」中央法規出版

《参考図書》

授業中に指示をします。

《授業時間外学習》

相談援助基礎実習やレクリエーションの企画を行うにあたっての調査など授業を進める上で必要な課題を提示します。

《備考》

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|------------------------|--|
| 1 | ガイダンス/ボランティアのレポート課題の提出 | Ⅱ期に行う相談援助実習指導Ⅰの位置づけ、目的、課題を説明します。主として夏季休暇期間中に行ったボランティアについての課題を提出してください。 |
| 2 | ボランティアの振り返り | グループワークを行いボランティアで学んだことを共有したり、直面した課題について考察したりするとともに、人権や倫理、利用者理解が進んだかを評価します。 |
| 3 | レクリエーション① | 福祉の現場のレクリエーションは、利用者の「生活の質 (QOL)」向上だけでなく、機能回復や残存能力の維持にも関係します。グループワークで企画を考えてみます。 |
| 4 | レクリエーション② | 引き続き、グループワークでレクリエーションを考えます。実際、どのようなレクリエーションが行われているのか、など調べることも必要になります。 |
| 5 | レクリエーション③ | レクリエーション計画を作成します。必要な人数や道具を揃えるなど、実際の場面を想像しながら作成をします。作成後は報告し、互いに評価をしましょう。 |
| 6 | 現場におけるディスカッション力① | 支援に際し、異なる専門の職員同士のディスカッションが行われます。ボランティアでのそうした場面の観察を基に多職種連携について学びます。 |
| 7 | 現場におけるディスカッション力② | 多職種連携のディスカッションにおける社会福祉士での役割を学ぶとともに、ディスカッション力を福祉の現場との関係の中で理解します。 |
| 8 | 現場におけるディスカッション力③ | 現場におけるディスカッション力を身につけるための方法を学び、実践します。 |
| 9 | 現場におけるディスカッション力④ | 引き続き、現場におけるディスカッション力を身につけるための方法を学び、実践します。 |
| 10 | 相談援助基礎実習とは | 2年次に開講される相談援助基礎実習について、その概要を説明します。どのような基礎実習の学びを希望するか、考えてください。 |
| 11 | 相談援助基礎実習に備える① | 基礎実習先となる福祉施設の法的な位置付けや体制やサービス内容などを調べておきましょう。自らが学ぶという姿勢が必要になります。 |
| 12 | 相談援助基礎実習に備える② | 施設の利用者を支える社会資源について調べておきましょう。ボランティアは社会資源の一つ。資源を活用して利用者のQOLを高め、また自立に向けて支援をしています。 |
| 13 | 相談援助基礎実習に備える③ | 相談援助基礎実習先について教員と相談をします。学びたい事柄を踏まえ、それらを学ぶことのできる実習先を共に選びます。 |
| 14 | 相談援助基礎実習に備える④ | ハウ・レン・ソウは社会人の常識。実習時、毎日のように報告書 (日報) を作成しますが、意義や書き方を学びます。 |
| 15 | 全体総括 | 相談援助基礎実習について理解ができてきているかを確認します。 |

《専門教育科目 相談援助基盤科目》

| | | | |
|---------------------------|---|----------|-----------|
| 科目名 | 福祉住環境論 | 科目ナンバリング | SFFC21001 |
| 担当者氏名 | 稲富 恭 | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2・選択 |
| | | 開講年次・開講期 | 1年・I期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ○ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性） ◎ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） | | |

《授業の概要》

高齢者、障害者が地域社会の中で生活を送るためには、福祉の視点にたった住環境整備を欠かすことが出来ない。本講義では、(1)住環境整備の背景となる社会福祉の現状について概観するとともに、(2)住宅改修、バリアフリー、ユニバーサルデザインを中心に福祉住環境整備手法について学ぶ。

《テキスト》

「福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト 改訂4版」東京商工会議所, 2016

《参考図書》

「福祉住環境コーディネーター検定試験 3級過去問題集 2017年版」HIPS合格対策プロジェクト, 2017

《授業の到達目標》

- 福祉住環境コーディネーター3級に相当する能力を身につける。
- 生活環境の不適合に対して、物理的な問題解決手段を提案できる能力を身につける。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
シラバスを参考に、テキストの該当箇所に目を通し、疑問点を明確にしておく。
- ・復習の方法
テキストの必要箇所を暗記する。配布プリントの問題を復習し、次回の小テストの準備を行う。

《成績評価の方法》

- ・授業中に毎回実施する小テスト(100%)によって評価する。
- ・小テストは採点后返却し、解説を行う。

《備考》

原則として「福祉住環境コーディネーター検定試験3級」の受験を目指す学生を対象とする。
試験日程に合わせて、開講日を変更する場合がある。

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|-------------------|---|
| 1 | 少子高齢社会と福祉住環境整備 | 少子高齢社会の現状と今後のあり方について理解する |
| 2 | 日本の住環境と福祉住環境整備 | 日本の住空間の特性と福祉住環境整備の必要性について理解する |
| 3 | 福祉住環境と在宅ケア | 介護保険制度と障害者総合支援法を中心に在宅生活の支援について理解する |
| 4 | 高齢者の健康と生活 | 老化の特性とヘルスプロモーションについて理解する |
| 5 | 障害者の自立と生活 | 障害の種類と障害者の社会参加状況について理解する |
| 6 | バリアフリーとユニバーサルデザイン | バリアフリー、ユニバーサルデザインの歴史、概念について理解し、具体的なデザイン手法について理解する |
| 7 | 福祉用具の分類と活用 | 共用品、福祉用具の概念、分類、役割について理解する |
| 8 | 居住環境整備の技術(1) | 居住環境整備に必要な空間設計について理解する |
| 9 | 居住環境整備の技術(2) | 居住環境整備に必要なデザイン、設備計画、避難防災計画について理解する |
| 10 | 生活行為と空間整備 | 移動、入浴、排泄等の生活行為に必要な空間整備方法について理解する |
| 11 | ライフスタイルの多様化と住まい | 戦後の家族形態の変化とそれに伴う生活形態について理解する |
| 12 | 安心できる住生活 | 高齢者居住法、住宅セーフティネット法等の居住安定政策について理解する |
| 13 | 安心して暮らせるまちづくり | 福祉のまちづくり条例等、地域における福祉住環境整備について理解する |
| 14 | 授業の補足と重要箇所の復習 | 授業内容の重要ポイントについて補足し、「福祉住環境コーディネーター検定試験」の準備を行う。 |
| 15 | 授業のまとめ | 授業のまとめと小テストの解説 |

《専門教育科目 専門発展科目》

| | | | | |
|---------------------------|---|-------|----------|-------------------|
| 科目名 | レクリエーションワーク | | 科目ナンバリング | SFFD22028 |
| 担当者氏名 | 原 志津 | | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2・選択 | 開講年次・開講期 1年・Ⅱ期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | <input type="radio"/> 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） <input type="radio"/> 2-3 地域と関わり社会資源や生活に関する資料を収集できる（地域と関わる力、チームワーク、リーダーシップ） <input type="radio"/> 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） <input checked="" type="radio"/> 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） <input type="radio"/> 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） | | | |

《授業の概要》

子どもから高齢者までの各世代にわたる心身の健康、及びレクリエーション活動の普及・推進を目指した「レクリエーション・インストラクター」資格の学習内容に基づき、レクリエーションの基礎理論を展開する。

《テキスト》

「レクリエーション支援の基礎－楽しさ・心地よさを活かす理論と技術－」（日本レクリエーション協会・2013）本体2000円

《参考図書》

「リハビリテーションとレクリエーション援助」（嵯峨野書院・1998）
 「楽しいアイスブレイキングゲーム集」（日本レクリエーション協会・2002）

《授業の到達目標》

1. 余暇とレクリエーションの社会的意義が理解できる。
2. レクリエーション支援の体系及び支援者の役割が理解できる。
3. 楽しさを基本としたレクリエーション事業計画の流れが理解でき、立案できる。

《授業時間外学習》

子ども時代に体験したレクリエーションの体験や、地域の行事に参加した経験などを思い出し、自分が暮らしている地域の行事やイベントには積極的に参加してください。

《成績評価の方法》

授業参加点（出席状況・受講態度30）＋リアクションペーパー提出点20＋実技指導評価点20（企画書と指導）＋最終レポート提出点30
 提出物等にはコメントを付記して返却する。

《備考》

実技指導者にふさわしい服装・靴で参加すること。遅刻・見学は3回で欠席1回に該当します。授業中に配布した資料はなくさないように必ずファイルすること。

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|------------------------|------------------------|
| 1 | レクリエーション基礎理論① | レクリエーションの意義1 |
| 2 | レクリエーション基礎理論② | レクリエーションの意義2 |
| 3 | レクリエーション基礎理論③ | レクリエーション運動を支える制度 |
| 4 | レクリエーション基礎理論④ | レクリエーション・インストラクターの役割 |
| 5 | レクリエーション基礎理論⑤ | まとめ |
| 6 | レクリエーション支援論① | ライフスタイルとレクリエーション |
| 7 | レクリエーション支援論② | 少子高齢社会の課題とレクリエーション |
| 8 | レクリエーション支援論③ | 地域とレクリエーション |
| 9 | レクリエーション支援論④ | まとめ |
| 10 | レクリエーション事業論① | レクリエーション事業とは |
| 11 | レクリエーション事業論② | 事業計画Ⅰ |
| 12 | レクリエーション事業論③ | 事業計画Ⅱ |
| 13 | レクリエーション事業論④ | 安全管理 |
| 14 | レクリエーション事業論⑤ | まとめ |
| 15 | 福祉レクリエーション支援専門職の確立に向けて | 福祉レクリエーション支援専門職の確立に向けて |

《専門教育科目 専門発展科目》

| | | | |
|---------------------------|---|----------|-----------|
| 科目名 | 児童・高齢者・障害者の心理 | 科目ナンバリング | SFFD21013 |
| 担当者氏名 | 原 志津 | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2・選択 |
| | | 開講年次・開講期 | 1年・Ⅱ期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 何事にも関心をもち、探求しようとする態度（知的好奇心） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 3-2 人を支援するために、学際的な知識や技能を統合して用いることができる（知識・技能の統合） ○ 3-3 人のニーズや地域特性、社会状況に合わせて柔軟に相談・援助を進めることができる（創造的思考力） | | |

《授業の概要》

この授業では「生涯発達心理学」で学んだ知識を基盤にして将来社会福祉の現場で、関わっていく人たち（児童・高齢者・障害者）の「こころ」を理解するために知っておくべき心理学の知識のエッセンスを学ぶ。

《テキスト》

必要な資料は毎回配布する。

《参考図書》

授業時間内に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

支援に必要な児童・高齢者・障害者を理解するために、必要な知識を学び、関心をもって、当事者の話し・その家族の話しに耳を傾けること。共感しながら理解し、支援のためのスキルを自分なりに洗練していけるよう学んでいく。

《授業時間外学習》

普段から様々な人と出会って、積極的に関わっていく姿勢を持つておくこと。

《成績評価の方法》

授業態度 30%
 ミニレポート 20%
 授業最後のまとめ 50%
 レポート等提出物にはコメントを付記して返却する。

《備考》

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|------------------|---|
| 1 | オリエンテーション | この授業の進め方について紹介する |
| 2 | 支援に必要な高齢者との関わり | 高齢者に関して、知っている事と知らないことを知る・知らないことを理解していくために必要な知識とは何か。 |
| 3 | 高齢者の健康度と要介護度について | 高齢化の社会の実態と高齢者の支援 |
| 4 | 高齢者の健康度 | これまでの高齢者と、これからの高齢者の違い |
| 5 | 高齢者支援のポイント | 高齢者の「学習性無力感」とやる気を引き出す関わりについて |
| 6 | 障害とその心理的影響① | 障害者に関する法律の変遷・障害の及ぼす影響と適応・不適応 |
| 7 | 障害とその心理的影響② | 目にみえる障害と見えない障害を知る。障害受容について理解する。 |
| 8 | 精神障害者の理解① | 精神科病院での支援者の働きかけ |
| 9 | 精神障害者の理解② | 精神障害者の生活を地域で支援するという事について |
| 10 | 知的障害者の理解① | 8歳以降の知的能力の違いで、周りの世界がどのように見えてくるか |
| 11 | 知的障害者の理解② | 知的障害者にとっての社会性について |
| 12 | 支援に必要な児童への対応 | 児童の事例について考える |
| 13 | 支援に必要な高齢者の対応 | 高齢者の事例について考える |
| 14 | 支援に必要な障害者の対応 | 障害者の事例について考える |
| 15 | 児童・高齢者・障害者の心理 | 様々な障害をもつ方たちと共に生きていくための視点を考える・全体のまとめを行う |

《教職に関する科目》

| | | | |
|---------------------------|---------|----------|-----------|
| 科目名 | 教職概論 | 科目ナンバリング | STAL41001 |
| 担当者氏名 | 古田 薫 | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2・選択 |
| | | 開講年次・開講期 | 1年・I期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | 履修カルテ参照 | | |

《授業の概要》

教職とは何か、教員の社会的役割は何か、教員の仕事とはどのようなことなのかについてさまざまな角度からアプローチし、教職の意義についての理解を深める。実際の「教師の仕事」を、授業、校務分掌、保護者や地域と連携の観点から捉えるとともに、法的な位置づけや立場を理解する。また、教員として求められる資質や能力はどのようなものかについて理解し、自らの課題を明らかにする。

《授業の到達目標》

- 教員の社会的役割とその歴史の変遷を理解している。
- 教員養成と教員免許制度について理解している。
- 教員の任免と服務について理解している。
- 教員の種類と職務、校務分掌について理解している。
- 教員に求められる資質能力と研修について理解している。
- 自分なりの教職観を持ち、自身の課題を省察することができる。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションやグループワークへの参加度、発表回数等） 20%
- ②提出物（提出の回数と完成度等） 30%
- ③定期試験 50%（持ち込み不可）
- *提出物はコメントを付して返却する。

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|-----------------------|--|
| 1 | オリエンテーション | ・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教職とは何か、教員を目指すものとしての姿勢について考察する。 |
| 2 | さまざまな教職観とその歴史の変遷 | ・教職観の歴史の変遷をたどりながら、自分自身の教職観、教員像を獲得する。 |
| 3 | 教員に求められる資質・能力 | ・教員に求められる資質・能力を、さまざまな答申やデータから読み解き、自分自身の課題を明らかにする。 |
| 4 | 教員養成と教員免許制度 | ・教員免許制度の法的側面を学び、教員養成の仕組みを理解する。 ・教員採用試験の概要を知り、採用試験までの展望を持つ。 |
| 5 | 教員の職務①：教員の種類と職務、校務分掌 | ・学校の教育活動を支える教員組織と役割分担、連携協力について理解する。 |
| 6 | 教員の職務②：学習指導、生徒指導、その他 | ・学習指導、生徒指導、進路指導、教育相談、その他の教員の職務について理解する。 |
| 7 | 教員の職務③：保護者・地域との連携協力 | ・保護者や地域住民との連携協力の意義を理解し、どのようなあり方が望ましいか考察する。 |
| 8 | 教員の職務④：アカウントビリティと学校運営 | ・学校運営のプロセスを理解する。 ・学校の果たすべきアカウントビリティとは何かを理解する。 |
| 9 | 教員の人事管理①：服務 | ・地方公務員法および教育公務員特例法等から教員の服務と身分について理解する。 |
| 10 | 教員の人事管理②：任免と服務の監督、懲戒 | ・教員の任免に係る制度、教員の身分保障と分限、懲戒等について理解する。 |
| 11 | 教員の人事管理③：教員評価 | ・教員評価の意義と課題について理解する。 |
| 12 | 教員の資質向上と研修 | ・教員の研修制度について理解し、資質向上のためにどのような取組みを行う必要があるかを考察する。 |
| 13 | 教員の労働環境 | ・教員の勤務実態、労働条件について、事例にそって理解する。 |
| 14 | 教師という仕事—やりがいと悩み— | ・教員としてのやりがいや悩みについて、さまざまな文献を通して教員の生の声を聞き、教職に対する自分自身の考えを整理する。 |
| 15 | 学習のまとめと振り返り | ・学習を振り返って、教職とは何かを考察する。 |

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

- ・東京都教職員研修センター（監修）『教職員ハンドブック 第3次改訂版』 都政新報社、2012
- ・石村卓也『教職論 これから求められる教員の資質能力』 昭和堂、2008年。
- ・『新任教師のしごと 中学校・高校版』 小学館、2007年。

《授業時間外学習》

毎回、授業の内容に関連したミニレポートを作成し提出する。配布された資料をあらかじめ読んでおく。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止する。ルール違反に対しては厳格に対処する。

《教職に関する科目》

| | | | |
|---------------------------|---------|----------|-----------|
| 科目名 | 教育原理 | 科目ナンバリング | STAL41002 |
| 担当者氏名 | 古田 薫 | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2・選択 |
| | | 開講年次・開講期 | 1年・I期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | 履修カルテ参照 | | |

《授業の概要》

教育をさまざまな視点から検討し、教育と社会との関連や現代社会状況の中で直面する諸問題を考察することにより、教育の本質や基本原理に対する理解を深める。

《テキスト》

プリント（資料）を適宜配布

《参考図書》

中村弘行『人物で学ぶ教育原理』三恵社、2010年。
 広岡義之（編著）『新しい教育原理』ミネルヴァ書房、2011年。

《授業の到達目標》

- 教育の概念と本質を理解し、これらに基づいて現代の教育問題を分析できる。
- 主な教育思想、教育観を理解し、さまざまな教育方法や教育課程のありかたと関連づけることができる。
- 児童の権利と福祉について理解している。
- 生涯学習の理念について理解している。

《授業時間外学習》

参考図書・資料の関連する部分を読んで講義の予習をすること。わからない用語は、事前に調べて授業に臨むこと。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションへの参加度、発表回数等）30%
 - ②課題の提出と完成度 30%
 - ③授業中のミニテスト 40%
- *提出物はコメントを付して返却する。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止する。ルール違反に対しては厳格に対処する。

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|--------------------|--|
| 1 | ガイダンス | ・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教育とは何か、人間の特性と教育 |
| 2 | 教育の概念と本質 | ・教育の概念と本質 ・教育の必要性と可能性・限界 |
| 3 | 子どもの発達と教育 | ・発達とは何か ・発達における教育の役割 |
| 4 | 教育の目的、形態と機能 | ・教育の目的、形態と機能 ・教育における教師の役割 |
| 5 | 主な西洋教育思想とその系譜① | ・子ども観の変遷 ・主な教育思想、教育哲学の系譜：代表的思想家とその教育思想の内容 |
| 6 | 主な西洋教育思想とその系譜② | ・主な教育思想、教育哲学の系譜：代表的思想家とその教育思想の内容 ・教育思想、教育哲学が現代の教育に与えている影響 |
| 7 | 公教育制度の成立と発展① | ・学校の起源と歴史 ・近代公教育の誕生 |
| 8 | 公教育制度の成立と発展② | ・日本における明治期以前の教育 ・日本における近代学校制度の成立と発展 |
| 9 | 教育の内容と方法 | ・教授と学習の理論 ・さまざまな教育方法 |
| 10 | 日本における教育思想と教育方法の発展 | ・学校制度の発展と教育思想、教育方法（戦前まで） |
| 11 | 日本における教育思想と教育方法の発展 | ・学校制度の発展と教育思想、教育方法（戦後） |
| 12 | 教育における「ケア」 | ・「ケア」の定義、「ケア」の要素 ・教育における「ケア」、教育における公正と「ケア」 |
| 13 | 児童の福祉と保護 | ・児童の権利と福祉 ・児童虐待の防止と早期発見、早期対応 |
| 14 | 生涯学習 | ・生涯学習社会の成立とその背景 ・生涯学習の重要性、自分のライフコースのデザイン |
| 15 | まとめと振り返り | ・学習マップの完成と発表による、学習のまとめと振り返り |

《教職に関する科目》

| | | | |
|---------------------------|---------|----------|-----------|
| 科目名 | 教育制度論 | 科目ナンバリング | STAL42003 |
| 担当者氏名 | 古田 薫 | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2・選択 |
| | | 開講年次・開講期 | 1年・Ⅱ期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | 履修カルテ参照 | | |

《授業の概要》

教育行政の組織と機能および学校教育に必要な法令や制度の基本、キーワードについての理解を深め、教育制度や学校経営についての体系的な知識を獲得することを目的とする。教育制度の意義や概要を学習するとともに、最近の教育問題や教育改革の動向を、学校制度・学校経営の視点から考察する。

《授業の到達目標》

○教育法規の体系を理解し、主な教育関係法規名とその概要を説明できる。○教育の理念や目的・目標について理解し、義務教育の意義および特別支援教育の特質を説明できる。○教育行政の仕組みや学校制度について理解している。○学校運営について理解している。○今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、自分自身の考えを述べるができる。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションへの参加度、発表回数等）20%
 ②課題の提出と完成度 20%
 ③定期試験 60%（持ち込み不可）
 ※提出物はコメントを付して返却する。

《テキスト》

授業中に指示する。

《参考図書》

- 『解説教育六法 2017年度版』三省堂。
- 坂田 仰、黒川 雅子、河内 祥子、山田 知代『図解・表解教育法規-“確かにわかる”法規・制度の総合テキスト』教育開発研究所、2014年。
- 高見茂・宮村裕子・開沼太郎（編）『教育法規スタートアップ 教育行政・政策入門 ver.3』昭和堂、2015年。

《授業時間外学習》

授業で配布したプリントに基づいてまとめノートを作り復習すること。授業でわからなかった点について調べたり、質問を用意したりすること。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止する。ルール違反に対しては厳格に対処する。

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|------------------------|--|
| 1 | オリエンテーション 教育行政と教育制度 | ・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教育行政の基本原理 |
| 2 | 法体系と教育関係法規の概要 | ・法規の体系 ・教育制度の中心的な法規とその内容 |
| 3 | 憲法教育基本法制：憲法、教育基本法① | ・憲法における教育に関する規定、教育制度の法的基盤 ・教育基本法の性質 |
| 4 | 憲法教育基本法制：教育基本法② | ・教育基本法改正のポイント ・教育基本法の意義と内容 |
| 5 | 学校制度①：学校に関する法規 | ・法規上の学校の定義 ・日本と諸外国の学校体系の特徴 |
| 6 | 学校制度②：学校の設置と管理 | ・学校とその公共性 ・学校の設置と管理に関する原則 |
| 7 | 教育行政の仕組み①：文部科学省 | ・文部科学省と地方の教育委員会の関係と役割分担 ・中央教育審議会やその他の諮問機関の役割と影響 |
| 8 | 教育行政の仕組み②：教育委員会制度 | ・教育委員会制度の歴史 ・教育委員会制度の概要 |
| 9 | 教育を受ける権利の保障①：義務教育1 | ・教育を受ける権利、教育を受けさせる義務と義務教育制度 ・義務教育の意義と義務の内容 |
| 10 | 教育を受ける権利の保障②：義務教育2 | ・教育を受ける権利を保障するための制度 ・就学援助、教育扶助の概要 |
| 11 | 教育を受ける権利の保障③：特別支援教育1 | ・特別支援教育の理念および特殊教育との違い ・特殊教育から特別支援教育に移行した背景 |
| 12 | 教育を受ける権利の保障④：特別支援教育2 | ・特別支援教育に関する諸制度 |
| 13 | 学校運営①：開かれた学校 | ・開かれた学校の意義 ・地域との連携とコミュニティ・スクール制度 |
| 14 | 学校運営②：アカウンタビリティと学校評価 | ・学校アカウンタビリティとマネジメント・サイクル ・学校評価の意義と評価の形態 |
| 15 | 学習のまとめと振り返り | ・学習マップの完成と発表による学習のまとめと振り返り |

《教職に関する科目》

| | | | |
|---------------------------|----------------|----------|-----------|
| 科目名 | 教育相談（含カウンセリング） | 科目ナンバリング | STAL41008 |
| 担当者氏名 | 原 志津 | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2・選択 |
| | | 開講年次・開講期 | 1年・Ⅱ期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | 履修カルテ参照 | | |

《授業の概要》

近年の学校教育の重大問題として学力低下とこころの教育をめぐめる問題があげられる。このような状況に対して日常的に子どもたちと接する教師にできることは何だろう。しっかり見て、耳を傾けて子どもたちの声を聴き、子どもたちの気持ちを汲み取り、短い言葉で要約して返すというやりとり、すなわちカウンセリングの技術を学ぶことは、現在の教育現場においても、古くて新しい意味があるように思われる。

《授業の到達目標》

- ・カウンセリングの基本技術を学ぶ
- ・自分自身のこころに焦点を当てる方法を学ぶ
- ・子どもたちのサインに気づく
- ・こころの成長・変化のプロセスを知る

《成績評価の方法》

授業への取り組み30% レポート・確認テスト20%
授業内容の理解 50%

- ・レポートはコメントを付けて返却する
- ・最終回の「まとめ」は、全体的な講評を伝える

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|--------------------|---|
| 1 | 15回の授業のオリエンテーション | 「人の話をきく」ということについて考える |
| 2 | カウンセリングの基礎 | カール・ロジャーズのクライエント中心療法について知る |
| 3 | カウンセリングの実習 | カウンセリングの実習（ロールプレイ）を行う |
| 4 | カウンセリングのプロセスについて | カウンセリングのプロセスについて、カール・ロジャーズの理論から学ぶ |
| 5 | フォーカシングについて | カウンセリングの「体験過程」から、自分の内面に焦点化することを学ぶ フォーカシングの実習も含む |
| 6 | 自分自身のテーマを知る | 心理テストを体験し、自分自身のテーマを知る |
| 7 | こころと身体 | 身体に異常がないのに起こる症状について学ぶ |
| 8 | いじめの被害者・加害者への理解と対応 | いじめは、学校で学ぶ権利を奪うだけでなく命を奪うことさえある。学校と教育の場でのいじめによって辛い思いをする子どもたちを減らすための取り組みについて考える |
| 9 | 特別支援教育を必要とする子どもたち | 本人が努力しているにも関わらず、発達に凸凹があり、できることとできないことの差が大きく日常生活に困難を抱えている子どもたちを理解し、支援する方法を学ぶ |
| 10 | 子どもたちの育つ環境の問題 | 大人が子どもたちの発達を妨げている事例について学ぶ |
| 11 | 箱庭療法について | 箱庭療法が生まれた背景との理論について学ぶ |
| 12 | こころの治癒過程を知る | 箱庭療法のDVDから、こころの治癒過程についての理解を深める |
| 13 | 専門機関との連携 | 教師に、できることと・できないことは何かを知り、専門機関と連携する上でたいせつなことを知る |
| 14 | 様々な事例 | 学校現場での事例を聴いて自分なりの対処の仕方を考える |
| 15 | まとめ | 授業での学びをふり返り、今後活かすべきことは何かを考える |

《テキスト》

教育相談ワークブック 子どもを育む人になるために 桜井・斉藤・森平 北樹出版

《参考図書》

『スクールカウンセラーがすすめる112冊の本』滝口俊子・田中慶江編 創元社

《授業時間外学習》

こころについて学ぶための本のリストを配布するので、できるだけ多くの本を手にとって読んでほしい。自分の最も興味ある一冊を選んで、用紙は問わないが、手書きで5枚の感想文を最終授業日まで提出すること。

《備考》

教職をとらない学生も受講可能である。